



【家族支援】

- ・子どもの発達上の課題、良いところ、頑張っているところについて家庭と連携し、その後の支援に生かします。
- ・個別の相談を随時実施しています。

【移行支援】

- ・各学校、事業所など関係機関に向けての情報提供を行います。
- ・具体的な移行を想定した療育活動を行います。

【地域支援・地域連携】

- ・体験学習で地域イベントへ参加することがあります。
- ・近隣のスーパーに買い物の行くことがあります。
- ・地域の方々へのあいさつやマナーが守れるような支援をしています。

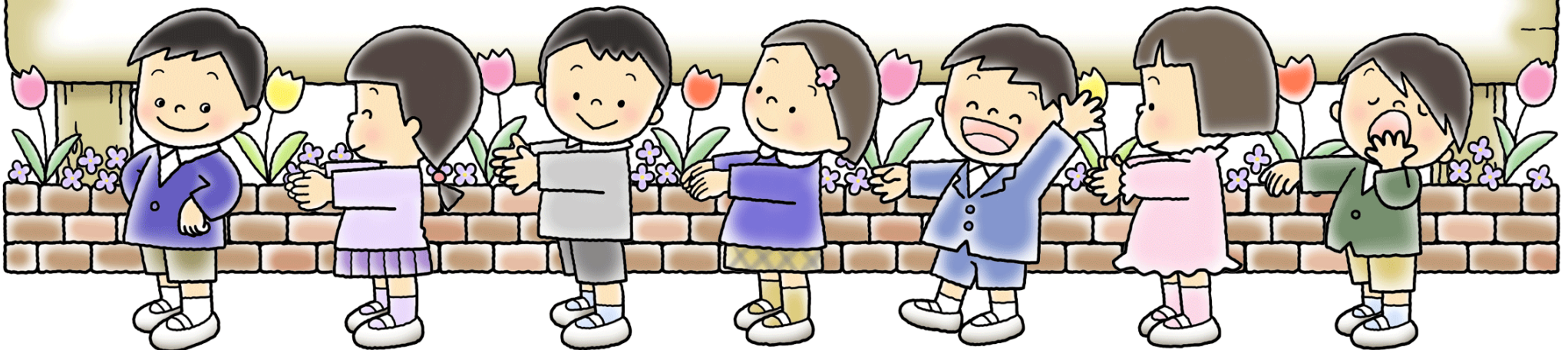
営業時間：9時30分～18時

送迎実施の有無：有

※地域によりできない場合があります

【職員の質の向上】

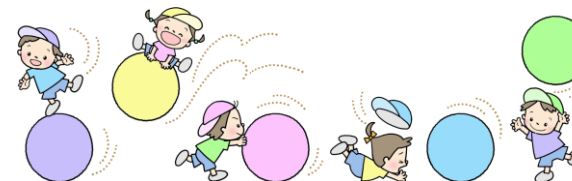
- ・日々のミーティング、ケース会議を実施します
- ・各種員会（虐待、防災、感染など）の発足、実施します
- ・所内研修を実施します
- ・外部研修の積極的な参加を促します





【本人支援】

	ココ・モコくらす	ワイイくらす	ステップ・ジャンプくらす
健康 生活	・食事（おやつ・お弁当）のマナーや姿勢を写真で提示し、繰り返し伝えていきます。 ・基本的生活習慣や身支度等、自分でできることが増やせるように支援していきます。	・自分の身体のしくみや体調管理をする方法について、学ぶ機会をつくります。 ・「声の大きさ表」を使って、場面にあった声の出し方を、活動の中で体験する取り組みをします。	・身だしなみの習慣が身につくように、整え方を個々にあった支援で取り組んでいきます。 ・来所時に毎回、自分で体温を測ったり、セルフチェックをしたりすることで、体調を管理する方法を学ぶ機会をつくります。
運動 感覚	・食事や制作時などの道具の使い方を、写真を提示して伝え、それ真似て使おうとする取り組みをしていきます。 ・筋力の強化を図るために散歩や徒歩で買い物に出かける機会を作ります。	・身体の動かし方や力加減を楽しみながら経験できるような取り組みをします。	・事前に視覚支援などで交通ルールを伝えて外出することで、安全な歩き方などの経験を積み、自分で意識して移動できるように取り組んでいきます。 ・楽しみながら身体を動かす活動の機会を設けます。
認知 行動	・見通しを持って行動できるように、スケジュールや活動のルールを写真や絵カードで伝えていきます。 ・簡単な指示を聞いて、それを理解して活動に参加する機会をつくります。	・「平等とは？」を説明し、同じクラスの子とも同士が平等に接することの必要性を繰り返し伝えていきます。 ・自分の物・みんなの物の扱い方を知るために、ゲームを通して伝えていきます。また、自分で元の場所に片付けられるように構造化した環境づくりをしていきます。	・作業では、個々に合った手順書を使い、最後まで取り組む、細かなことまで確認する、不足な点や分からないことを支援員に伝える練習をしていきます。 ・自分たちが使った場所を、道具などを使って掃除ができるように、道具の使い方や掃除の仕方を伝え、練習していきます。また、自分の役割を果たす機会をつくります。
言語 コミュニケー ション	・挨拶をする習慣をつけるために、来所時と降所時など、場面に合った挨拶をする取り組みをします。 ・遊びや活動を通して、たくさんの声掛けをすることで、多くの言葉に触れる機会を持ちます。また、自分の思いを発信しようとするところを代弁していきます。	・言語を伝えるゲームを繰り返し行うことで、コミュニケーション力を上げていきます。 ・支援員が話をする前に「話を始めるよ」と伝えることによって、話し手に注目する支援をしていきます。また、事前に質問タイムをいつとるかを伝えることで、質問タイムまで相手の話を聞く経験をします。	・名前を呼ばれた時に返答できるように、場面に合った返答の仕方ができるように練習していきます。また、オアシス運動が定着できるように、いろいろな場面で使う機会をつくります。
人間関係 社会性	・支援員が仲介して、他児との関わる機会を持ちます。 ・自分の思いが通らない時や気持ちが高ぶった時にクールダウンできるように環境を整えます。	・集団の一員として、自分の役割をはたせるような活動を提供していきます。 ・聞き方、質問の仕方、発表の仕方、他児との遊び方など行動を明確にして伝え、試してみる機会を提供します。	・他者とのちょうど良い距離や他者との関わり方を簡単なロールプレイを実施して知らせ、自由遊びなどの実際の場面で伝えていきます。 ・余暇活動を広げることで、楽しく過ごすことや、気持ちの切り替えができるように取り組んでいきます。



【本人支援】

	ソラ（高学年）	ソラ（低学年）	さくらくらす
健康 生活	・中学生に向けた自分をイメージする活動を取り組めます（中学生生活において不安に思っていることを聞き取る日を設け、共感し、可能であれば、先輩に質問する機会を持ちます。）	・荷物の管理や衣服のみだれなど、普段から意識して整えるように、声掛けをしたり、支援員と一緒に整えたりします。 ・事前に声をかけることで、おやつ時や宿題後の机が清潔かどうかを、自分で気づいて、どう行動できるように促します。	・昼食づくりは自分達で食べたい物、作ってみたいものを、少しずつレベルを上げて作ります。自分で昼食を作り、食べれることを目的に冷凍食品やお湯を沸かすことから始め、徐々にご飯を炊くことやいろんなおかずを作ることに挑戦していきます。予算立てをして買い物をし、栄養バランスを考えたメニューを考えてみることに挑戦していきます。
運動 感覚	・ビジョントレーニングを行います。両目を使い、対象を正確に見るための力を向上させる取り組みをします。また、集中力を養うために制限時間を設け、一つの課題をレベルを上げながらひとり取り組めるよう環境を整えます。	・チャレンジタイムの時間に、ビジョントレーニングの中の目の追従運動を中心に取り組みます。 ・デジリハを活用して力加減の調節や集中力を高められ様な取り組みをします。 ・コグトレを取り入れることで見本を見て行動したり、友達と息を合わせてする動きを楽しんだりする体験を取り入れます。	・交通機関を使って移動、探テックという教材を使って楽しみながら、興味の幅を広がるような取り組みをします。 ※探テック：探究学習×テクノロジーの略です。
認知 行動	・いろんな人との関りの場面で、相手の立場を考えて行動する（公平）ことを学び、子どもたちが普段遭遇するような場面を設定して、他者の立場を自分に置き換えて考える取り組みをします。	・集団生活の中で適切な行動を知るために、絵カードを使ったクイズを取り入れ、みんなで考える機会をつくります。 ・行動の切り替えをすタイマーや時計を使って、活動のはじまりの時刻や残り時間を知らせます。 ・コグトレを取り入れることで見本を見て行動したり、友達と息を合わせてする動きを楽しんだりする体験を取り入れます。	・外出活動など、自分たちで実現可能な計画を立てて、それを実現させるにはどうすればよいのかを考えてみる経験をしします。
言語 コミュニケー ション	・いろいろな活動の場面で、アサーティブに伝える話し方を知る機会を作ります。 ・いろいろな活動の場面で「アサーティブな話し合い」というはるの手法を使って、自分達で意見をまとめる機会を持ちます。	・相手にわかりやすい言葉で伝えるようになるために、いつでも、だれでも、どこでも支援員に聞いてほしいことを話せる関係性を築きます。相手に伝わりにくい時は、支援員が代弁したり、言葉をつないで文章化して伝わる言い方を知らせていきます。文の成り立ち原因と結果の 3 語文以上の分の構成を知り、相手により詳しく伝える方法を提供します。	・家庭、中学校以外の場所で、気の合う友達同士でおしゃべりをしたり、気になることを聞いてもらったりしながら、気持ちを切り替える場所になるような環境づくりをしていきます。
人間関係 社会性	・他者に配慮をするリーダーシップとは何かを学び、リーダーの役割を経験できる取り組みをします。 ・いろんな人との関りの場面で、相手の立場を考えて行動する（公平）ことを学び、子どもたちが普段遭遇するような場面を設定して、他者の立場を自分に置き換えて考える取り組みをします。	・友だちとのかかわりの中で起こりそうな場面を想定して、SSTカードを使って考える機会を作ります。 ・集団行動のルールを守って遊ぶために、活動の中で起こりそうな事例を元にロールプレイをしてみんなで一緒に考えて試してみる機会を作ります。	・家庭、中学校以外の場所で、気の合う友達同士でおしゃべりをしたり、気になることを聞いてもらったりしながら、気持ちを切り替える場所になるような環境づくりをしていきます。